

アフリカは再生できるか——・福 永 英 二

(アフリカ協会理事長)

OAUは25周年を迎えた。25年といえば壮年期である。自己批判のときでもある。

それにしても、現在のアフリカを覆っている暗いイメージは、旱ばつ、食糧難、難民、疫病の他に、世界経済の不況をまともにうけ、対外債務の加重、輸出品の世界価格の低落などを考えれば、これはアフリカにとって、悲観材料である。

フランスのアフリカ農政学者ルネ・デュモンは『ブラック・アフリカは出発が悪かった』(L'Afrique noire est mal partie)の中で「ブラック・アフリカは独立の時期が早すぎた。十分な準備もなく独立した」と、断定しているが、確かにブラック・アフリカは、多くのハンディーを背負って独立したことは間違いない。

『ジュン・アフリック』誌の来日したこともある編集長ベシール・ベン・ヤーメッド氏は、次のように言う。「今日のアフリカは、これからの世界舞台に登場する準備の中にある。独立30年ばかり、もう後戻りすることは許されない。そして言えることは、この30年間に回復出来ないような痛手はまだ受けていないし、また他から犯されてもいない。反対に独立に伴った未熟な幼似的な病気に耐え、これを克服してきた。一言でいえば、独立30年の経験でアフリカ諸国は大きく成長してきたと言えるのである」と。

OAU20周年に際して、『ジュン・アフリック』誌は、「アフリカは再生できるか」という特別号を出した。その巻頭言に「OAUは25年前に生まれたが、真のアフリカ統一は、エンクルマ、ナセル、モディボ・ケイタたちのアフリカ合衆国を信じた人々とともに消えた。アフリカは政治的統一に、経済的連帯感の強化を、そしてOAUが生まれたときの非植民地化と統一と発展という三つのスローガンの精神を取戻す以外には、アフリカの再生は難しい」と結論づけている。つまり、OAU本来の精神に帰ってアフリカ統合へ向えということであろうか。